



教職大学院各部会の今年度の動き（各部会長からのコメント）

総務部会長 瀧本 壽史



「日脚伸ぶ されど光陰 矢のごとし」。高浜虚子門下で俳誌「ホトギス」でも活躍した、大鱗町出身の医師で俳人の増田手古奈の句です。秋分も過ぎ冬至に向かって日が短くなり、過ぎ去る時間が愛おしい季節ですが、春に詠まれたであろうこの句が、逆に身につまされます。「一日も おろそかならず 古曆」。虚子の句です。あっという間の古曆にならぬよう、院生室が充実した「秋の夜長」になってほしいと思っています。2度目の設置認可があり、総務部会も残り半年、次年度に向けての環境作りに努めたいと思います。

総務部会長兼FD推進部会長

上野 秀人



教職大学院がスタートし3年目となりました。年間計画はほぼ完成しましたので、1年目の時のような突発的な出来事に対応することは減ってきたように感じています。ただ、活動する内容は厳密化されながら増加していますので、今後は「取捨選択」が不可欠だと感じています。特に来年度からストレートマスターのコースが3コースになる関係で、大幅な科目数の増加と新たな院生の受入れに力を注がなければなりません。必然的に学部の方の皆さんのお力添えがこれまで以上に必要となります。教務部会の目標である『教育課程の「計画」「円滑な実施」「評価」「改善」に努める』ことを考えると、円滑な実施に向けた整理を進めなければなりません。来年度から始

まる新たな活動を見据え予想し計画・実施していく準備となります。どこまでできるか挑戦が続きます。

実習部会長 成田 頼昭



理論と実践との往還・融合を図る教職大学院にとって、実習はたいへん重要な位置付けです。「Learning by Doing（為すことによって学ぶ）」、デューイの言葉のとおりまさしく院生たちは、実習に取り組み、省察をすることによって様々な気づきを得ています。ミドルリーダー養成コース及び教育実践開発コースそれぞれの目標のもと、実習によって、視野を

広げたり自身の課題を把握したり見いだした仮説を基に実践に挑戦したりするなど、大学だけではできない貴重な学びを得ることができております。本教職大学院の実習を受け入れてくださっている各行政機関、教育関連施設、学校に心より感謝申し上げますとともに、今後とも御理解御協力くださいますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



入試フォローアップ部会長 小林 央 美



「危機を救ったリーダーの公平性」

先般参加した学会で、東日本大震災の発災直後から現在に至るまで、医学と教育（学校等）が連携・協力し取り組んでいる子供と家族への継続的支援や被災地に入り現地の声に耳を傾けてきた方から、発災当日、校舎内で一夜を過ごし、先生方の知恵を結集して子供を守った校長先生の様子もお聞きしました。これらの校長先生のリーダー性に共通点があると感じます。日頃から先生方に対する公平性があり、民主的な学校経営をされていました。様々な意見を出し合い止揚しながら組織として取り組むことを大事にしていたようです。結果、緊急時に先生方が当事者性を持ち、意見を出し合い危機を乗り越えていたと推察され「チーム学校」として取り組む危機管理の姿の一端を学ばせていただいた時間でした。そんなチームの一員として、さらなる学びを目指す方々の入学をお待ちしております。

新任教員紹介

〔菊地一文先生が新たに着任しました〕



9月1日付けで本学に着任しました菊地一文（きくちかずふみ）と申します。これまで教育、研究、行政といった様々な立場から、全国各地の特別支援教育に携わってきました。教員という対人援助職を目指すうえで、そして教員としてその職務を遂行するうえで、児童生徒に対してはもちろんのこと、対応する相手の「思い」の理解に努めることが大切だと考えています。また、自身の取組を振り返り、「なぜ・なんのため」「なにを」「どのように」について再考し意識していくこと、そしてこれらを共有し協働していくことが大切だと考えています。

本県のインクルーシブ教育システムの充実と「十分な教育」の実現のために、そして学部卒院生や現職教員院生のみなさんの夢や志の実現に向けて、多様な子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援についてともに学び、探求していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

令和元年度 2年次院生による中間報告会の開催

平成31年2月15日（金）に青森県総合学校教育センターで行った年次報告会で、今の2年次院生が自身の研究テーマをもとに取組内容を報告しました。それから8か月が過ぎ、現在その取組を進化させながら、よりよい教師、より優れたミドルリーダーを目指して頑張っているところです。その中間報告会を令和元年11月2日（土）弘前大学教育学部において下記のとおり開催いたします。既に中間報告会のチラシとして皆様にご報告していますが、改めて皆様のご参加を心よりお待ちしております。



昨年度の年次報告会

期日・時間 令和元年11月2日（土）
9：15～17：00（受付8：45～）

場 所 弘前大学教育学部（中教室、302教室、303教室）
場 次 第 （*全日程に限らず、部分的な参加も歓迎いたします）

- | | |
|--|---------------------------|
| (1) 全体会開会 | (9：15～ 9：20 中教室) |
| (2) 2年次教育実践開発コース院生研究報告 | (9：20～11：30 中教室) |
| (3) 入試説明会 | (11：30～12：00 中教室) |
| (4) 2年次ミドルリーダー養成コース院生研究報告 | (12：30～14：40 302教室、303教室) |
| (5) ホームカミングディ [修了生と在学院生との討議]
テーマ：「教職大学院と学校現場とのつながり」 | (14：50～16：50 中教室) |
| (6) 全体会閉会 | (16：50～17：00 中教室) |

中間報告会に向けて

M2教育実践開発コース 浦田 夏輝

テーマ：主体性を育てる中学校数学科の授業づくり～予想活動を通して～



～予想活動を通して～

前期の実習では、生徒が課題の結果や解法を予想し、課題意識をもって課題に取り組む活動である「予想活動」を取り

入れた授業実践を行いました。今回の実践では昨年度の改善点を生かし、生徒の実態に沿った課題の設定を考えました。また、生徒が自身の予想と他者の

予想を比べたり、予想と結果を比べたりすることによって、予想する前とその後どのように考え

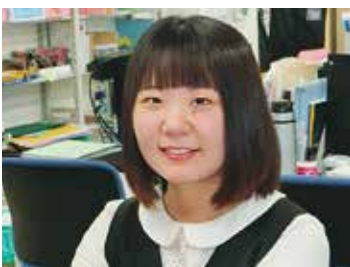


方が変わったかを見取れるワークシートの作成に取り組みました。

中間報告会では、このような授業の工夫が生徒の主体的な学びに有効であったかどうかを、検証の視点をもとにまとめ、報告したいと考えております。

M2教育実践開発コース 久保田 遥

テーマ：資質・能力の育成を目指す小学校国語



科の実践研究～パフォーマンス課題を取り入れた「読むこと」の実践を通して～

昨年度から研究テーマが変わり、今年度は資質・能力の育成を目指して、ウィギンズとマクタイが提案した「逆向き設計」の方法を用いて単元構想を立て、「パフォーマンス課題」を取り入れた授業実践に取り組んでいます。資質・能力の育成のためには、知識や技能を身に付けるだけでなく、身に付けた知識や技能を活用して課題解決する学習が必要だと考えます。そのために、児童が学習を通して何を理解していればよいかというゴールから単元や毎時間の授業を組み立てるようにしました。

また、一つの要素を高めるための単元を構成し、単元を導入、展開、まとめの3段階に分けて考えました。

中間報告会では、今年度実践した二つの単元について、児童が実際に取り組んだパフォーマンス課題をルーブリックで評価し、資質・能力の育成を達成することができたかどうかをまとめ、報告したいと思います。

M2教育実践開発コース 中野 悠

テーマ：歴史的思考力を深める日本史学習～地域教材の活用を通して～



全国的な課題として高校で学ぶ日本史は知識量の多さから暗記科目と言われ、ともすれば中学校歴史の復習だと誤解されている点があります。この全国的な課題を踏まえて今年度の実習では、高等学校日本史の目標で掲げられている歴史的思考力を深めるために、通史と共に地域教材を織り交ぜて授業を展開してきました。地域教材を通して、生徒の教科に対する興味・関心はもちろん、地域から見た日本史、民衆から見た日本史など視点を変えて生徒と共に考えてきました。また、授業の中では生徒が対話する場面や、思考する時間を設けてきました。

中間報告会では、授業実践を通して得た情報を基に、見えてきた研究成果と課題を報告したいと思っております。

M2教育実践開発コース 山田 なつみ

テーマ：人間関係形成能力を育む教科関連の学び～交流活動を通して～



～交流活動を通して～

昨年度の課題から、今年度は人間関係形成能力を六つの要素に分類し、教科の特質を考えて実践しました。

また、一つの要素を高めるための単元を構成し、単元を導入、展開、まとめの3段階に分けて考えました。

前期の授業実践では、人間関係形成能力の要素の一つである「協力する」、「思いやる」ことを育てる単元を構成し、授業実践をさせていただきました。そのため、中間報告会では、授業で見られた児童の人間関係形成の様子、実際の手立て、今後の課題についてまとめ、報告したいと考えています。そして、児童のアンケートの集計結果や人間関係形成のための学習ノートの自己評価から、児童の変容をまとめ、報告します。

M2教育実践開発コース 横田 強

テーマ：数学教育における主体性の育成につ



ての一考察～生徒の活動の場を活かして～

私は数学における主体性について着目し、これがどのようなものであるのかを考え、そ

してどうやって高めていくのかという方法について研究しています。数学の主体性とは、生徒たち自身が自ら試行錯誤して考えていくことであると捉え、生徒が自ら考える力を育成する上で、生徒の考えや思いを授業展開にいかん反映させていくのが重要であると考えています。現在、実習先の学校の先生方のご配慮の下、生徒たちへこれらを踏まえ、工夫した授業を計画・実践しています。中間報告会では、実践を踏まえ、その省察と今後に向けた課題について話したいと思います。

M2ミドルリーダー養成コース 稲葉 友輝

テーマ：不登校児童に対する組織的支援の在り方



に関する研究

今年度勤務校に戻り、大学院での学びを生かしながら、不登校課題の改善に向けて動いています。同僚の先生方からご理解

とご協力をいただきながら、学校全体がチームとして組織的な対応ができるように、不登校対応コーディネーターという立場から課題と向き合い、研究を進めています。

これまでの学校の対応を見直し、個に応じた新たな取組を始めることで、確かな変化が生まれています。中間報告会では、1学期からの実践による成果と課題、先生方へのアンケートやインタビューの分析から見えてきた、支援を継続させていく上での方向性について発表したいと考えております。

M2ミドルリーダー養成コース 工藤 由紀

テーマ：不登校の未然防止と早期発見・早期対応



に向けた取組について～レジリエンス向上プログラムと包括的アセスメントの実践を通して～

「学校に行くのが楽しみで、夏休みで

も早く行きたいと思っていたほどです！」(夏休み明けに聞いたある生徒の声)

こんな風に「学校って楽しい！」と子どもたちが思えるようになるには、何が必要で、何をすべきなのか。昨年度1年間の学びを通して考え着いたのが、「レジリエンス」と「包括的アセスメント」でした。



登校を渋る生徒を目の前に、今日も本校の先生方は、子どもや保護者に寄り添いながら奮闘しています。そんな中、私とはというと、大学院での学びを十分に生かすこともできず、反省する日々が続いています。

中間報告会では、本校の先生方のご協力のもと、不登校問題の解決に向けて実践してきた内容と今後の研究の方向性についてお伝えしながら、改めて子どもたちのために自分自身を奮起させる場としたいと考えています。

M2ミドルリーダー養成コース 下村 亘

テーマ：同僚との対話で作り上げる校内研修の在り方～全校でのコン



ピテンシー・ベースの授業づくりを目指して～

「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の実現のためには、

教員自身が「主体的・対話的で深い学び」を経験していかなければならないと考えています。このため、今年度の校内研修においては、子どもの学びの過程を丁寧に見取り、それを踏まえて同僚同士で語り合うことを中心に据えた研修の在り方を試みています。本校の先生方はとても熱心で研究についても理解を示してくださり、研修では積極的な協議が行われています。こうした対話的な研修を通して、どのような資質・能力を身に付けさせるのかを意識したコンピテンシー・ベースの授業づくりを学校全体で目指していきたいと考えています。教職大学院の先生のご協力を得ながら、先生方も子どもたちも共に学ぶ学校風土の醸成のために、今後も研究を進めてまいりたいと思います。

M2ミドルリーダー養成コース 下山 達彦
テーマ：高等学校における教科横断型授業改善



について
～他教科3人の週一回連携から始める構想と省察～

先日、数学の先生と夏期講習の内容について、生徒の反応を想定しな

がら「ああだ!」「こうだ!」と話し合いました。新たな取組に向けた意見交換には産みの苦しみはあるが喜びもまた多いものです。通常の授業とは違うので、お互いに自由な発想で話し合いながら、まだ習っていない内容を取り扱ったり、教室外での活動に時間をたっぷり使ったりしました。普段の授業では実施できないような内容も躊躇なく入れることもできました。目的は生徒の知的好奇心をくすぐりワクワクさせることなのですが、私自身が授業を協働で作出す時間にワクワクしました。教師のワクワクが生徒の知的好奇心に直結するとは限りませんが、まずは作り手である私たちがワクワクしなければ良い授業は作り出せないように思います。

M2ミドルリーダー養成コース 神 大輔
テーマ：併設型小中学校において連携を充実させるための手立～



児童生徒の実態把握と具体的取組の反省を通して～

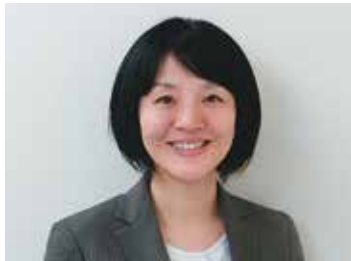
本校では、併設型小中学校の利点を生かした密度の濃い小中連携教育を

目指し、今年度から具体的な取組を始めたところです。取組を評価する段階における「①子どもの具体の姿による、小中学校共通の評価項目の設定」と「②子どもの意識と教職員の見取りの両面からの評価」、改善へ向けた話合いの段階における「③学校別に集計した、子どもの意識と教職員の見取りを比較した資料を用いての協議」を手立てとしながら、小中連携教育を充実させるための方法を探っています。中間報告会では、これまでの実践を振り返りながら、



成果と課題を整理して、今後の活動の方向性を見定める機会にしたいと考えています。

M2ミドルリーダー養成コース 成田 綾子
テーマ：担任と養護教諭のニーズの共通化につ



ながる情報共有の在り方について
～保健室からの情報発信と特別支援委員会での情報発信から～

昨年度は、教職大学院での学びと、

勤務校実習などから、「情報共有により担任と養護教諭のニーズを共通化していくことで、生徒の課題が共有され、生徒のよりよい変容につながるのではないか」という研究仮説を立てました。今年度は勤務校において、どういった情報をどのように提供すれば、担任と養護教諭のニーズが共通化されるのかを考え、いくつかの方法で試みています。具体的な成果はまだ見えていませんが、中間報告会では、生徒について担任等と情報交換した内容を分析し、紹介できればと思っています。

M2ミドルリーダー養成コース 成田 幸子
テーマ：つながりを生かした学級集団づくり



多様性と複雑化の今、学校は様々な教育課題と直面しています。よりよい学校づくりの参画者の一人として、学級担任が目の前の子どもたち

の幸せのためにできることは何か。教師としてのシンプルな問いを出発点に、子どもたちから教えられたことは、目には見えない“つながり”を生かすことでした。

学校に無数にある“つながり”の中で、どれをどのように生かすべきなのか。児童理解を核に、カリキュラム・マネジメントで“つながり”を可視化させ、チームのつながりを実感あるものにする。そして、児童の多様なニーズに応じたユニバーサルデザインによる授業づくりによって児童同士をつなぎ、児童と教材、そして教師をつなぐことを大切にしていきたいと思っています。

担任する学級での日々の営みの中から見いだした、“人と人のつながり”と“教育資源とのつながり”を中心に、単なる個の集合体だった学級が、同じ目標を持った学級集団へと成長しはじめた過程を報告します。

M2ミドルリーダー養成コース 三上 豊広
テーマ：居住地校交流の推進と負担感軽減を目指



した取組について～
実施計画作成と打ち
合わせ、実施記録の
効率化に着目して～
昨年度実施したア
ンケート調査から、
居住地校交流の推進
には「居住地校交流

に係る事前の実施計画作成と打合せ、事後の評価や実施記録の効率化」を図る必要があると考え、新たに「居住地校交流 実施計画・記録シート」を作成しました。今年度は10校の特別支援学校に、シートの試用とその実施に係るアンケートの協力を依頼しています。各校からのアンケート結果をもとに、居住地校交流の推進に向けた、よりよい手続きや進め方について考察していきたいと思ひます。

前期基礎科目を振り返って

あおもりの教育 I (環境)

M1 教育実践開発コース 佐藤 皓一



「あおもりの教育 I」の講義を受けて、私は灯台下暗しとはまさにこのことか！と思ひました。青森県の世界自然遺産である白神山地のことや、今私たちが学校

生活を送る弘前市のことなど、身近でありながら分からないことや発見がずいぶんあるものだと感じ、もっと青森県のことを知らなければならないと思ひました。

毎回専門の先生方が来てくださるため、詳しい情報が聞け、とても楽しい講義でした。弘前市の散策をし、水路の経緯や道の変化など地理について学び、とても有意義でしたが、隣にいる金田君(高校地歴：地理専門)は常時興奮していました。それほど

面白い講義だったと思ひます。これを機に、もっと青森県のことを学んでいきたいと思ひます。



あおもりの教育 II (健康)

M1 教育実践開発コース 藤澤 麻衣子



この講義では、心の発育発達や青森県の抱える「短命県」という健康課題について、社会医学や精神医学、健康科学、食料科学そして食育の視点から、最新研究

成果や実践成果を学ぶことができます。私は、不登校児童の事例から、学校に行く行かないという選択よりも、選択に至る経緯に目を向けることや、選択の機会を作る等本人の意思を尊重することの大切さを学びました。

全講義での学びは、一人一人異なる背景を抱える子どもの豊かな生活やその子なりの育ちのために重要な視点となりました。今後は、子どもの気持ちを大切に考え、課題の本質と向き合えるように、理論から学んだ子どもを見る目や関わり方をさらに深め続けます。

教育課程編成をめぐる動向と課題

M1 教育実践開発コース 古川 弘基



この講義では、教育課程の歴史との関連を踏まえながら、今日の教育現場が抱えている様々な課題や今後の教育課程編成を考えるために参考とすべき理論や視

点を学ぶことができました。特に印象深いのが、管理職や学校運営の中心的人だけでなく、全教員がその編成の過程に参画する必要があるということです。現場に出れば新米の教師となるわけですが、きちんと組織の構成員として意見を述べ加わっていく勇気をいただいたように感じます。学部生の時にはおそらく学ぶ機会すらあまりないが重要である、そんなエッセンスの詰まった内容を深く学ばせていただきました。

教育課程の開発と実践

M1 教育実践開発コース 一戸 萌里



「教育課程の開発と実践」では、カリキュラムマネジメント(年間指導計画)、健康教育、幼保小の連携について、また、「主体的・対話的で深い学び」の授業づ

くりについて学びました。特に、カリキュラム・デザインとしての「単元配列表」を作成したことがこれまでにない経験で、各教科の相互の関連を深く意識することにつながりました。子どもに身に付けさせたい資質・能力を関連させたり、実際の体験等とつながりをもたせたりと、子どもの力を伸ばすことができる計画を学習する子どもの目線に立って、教師一人一人が考えていく必要があると感じました。

生徒指導の理論的視点と実践的視点

M1 教育実践開発コース 山田 啓明



生徒指導については学部生時代にも学んだものの、具体的にどのような場面が想定されるのか、また、どのような対応を行う必要があるのか、ということを考える機会はなかなかありませんでした。そうした中で、教職大学院の「生徒指導の理論的視点と実践的視点」はよい機会となりました。この講義では、教育実践開発コース院生とミドルリーダー養成コース院生がそれぞれの視点から、様々な事例を出し合い、検討しました。生徒指導には、「これをすれば必ずうまくいく」という方法はありませんが、院生それぞれが意見を率直に出し合う中で、その事例におけるよりよい対応の在り方、そして生徒指導のあるべき姿を探っていきました。教員を目指す上で、必ず糧になる講義だと思いました。

か、ということを考える機会はなかなかありませんでした。そうした中で、教職大学院の「生徒指導の理論的視点と実践的視点」はよい機会となりました。この講義では、教育実践開発コース院生とミドルリーダー養成コース院生がそれぞれの視点から、様々な事例を出し合い、検討しました。生徒指導には、「これをすれば必ずうまくいく」という方法はありませんが、院生それぞれが意見を率直に出し合う中で、その事例におけるよりよい対応の在り方、そして生徒指導のあるべき姿を探っていきました。教員を目指す上で、必ず糧になる講義だと思いました。

教育相談の理論と方法

M1 教育実践開発コース 成田 伊織



これまで教育相談と言えば進路に関する話を話す機会であるというイメージしか持っていませんでしたが、「教育相談の理論と方法」の講義を通して、教育

相談とは児童生徒一人一人のことをより深く理解するための貴重な機会であることを学びました。また、発達障害の児童生徒に関する事例について考える機会もあり、これまで深く考えたことがなかったことについて自分で考え、また、他の院生の人たちと意見交換する中で考えを深めることができる非常に学びの多い講義でした。

教科領域指導研究法

M1 教育実践開発コース 蛸嶋 亮介



弘前大学教職大学院に入学してからの体感的な時間は時計が示すそれよりも早く経過し、ふと振り返ってみると、歩んだ道には既に半年分の学

びが積み重なっていました。これまでの講義で「教職」について考え、様々な角度から知見を深める中で特に印象深かった講義として「教科領域指導研究法」が挙げられます。

これから教壇に立つことを志し、「授業とは何か」を考える上では学習指導要領などで教科の意図を理解することが重要であると考えます。この講義ではそれを教室全体で行い、他教科と照らし合わせることで「授業」を考える視野を広げることができました。後期からはフィールド実習で本格的に授業を行わせていただきます。この講義で学んだ事柄と実践的な学びを照らし合わせ、より深い学びを実現したいと考えています。

学校安全と危機管理

M1 教育実践開発コース 谷 垣 花



この講義では主に、学校における安全教育や学校安全・危機管理に関する基本的事項、学校事故防止のための原理原則について学びました。さら

に、アレルギー疾患に関する対応事例や災害発生時の対応事例など、実際に起きた事例をもとに、対応のロールプレイや事例検討を行うことで、学校安全・危機管理に関する教職員の役割について考察を深めることができました。

講義を通して、学校安全や危機管理は、教員一人一人が子どもの命を守る役割を自覚し、当事者意識をもって



取り組む必要があることを学びました。今後は学んだことを活かし、養護教諭として果たすべき役割を明らかにするとともに、協働して子どもを守る姿勢をもち続けたいと思います。

現代の学校と教員をめぐる動向と課題

M1 教育実践開発コース 金田 宏樹



現代の教育改革や教育の課題を俯瞰してとらえ、社会学の見方でもって、論理的・客観的にとらえる講義です。

ここで扱う『教育社会学』のテキスト

は難解な用語が非常に多く、理解するまで何回も読み込まないといけませんでした。毎週、当該回の章の質問をまとめ、論点をあげる課題が出されるのですが、内容が難しいので正直かなり負担でした。しかし、教員として働く中での疑問や当たり前になっていたことに対して言葉や理論が与えられていったので、教育課題のわけの分からなさが消え、柔軟に物事を考えられるようになったと思います。今後も社会に対して学校がどのようにあるべきか考えていきたいと思っています。

学びの様式と授業づくり

M1 教育実践開発コース 米田 雄人



この講義では、ミドルリーダー養成コースの先生方との対話を通して、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりについて学ぶことができます。

す。

どのようにして、児童の学習意欲を向上させるか、場面に応じてどの授業形態を取り入れるかなど、ミドルリーダー養成コースの先生方の実体験に基づきながら議論をすることができ、自らの実践力を高めていくことにつながられます。また、ICTを活用することの効果などについても、現職の先生方の実践経験やデータを基に学ぶことができます。授業をつくる際に意識しなければならない様々なポイントを理解することで、自らの授業の幅を広げ、深めていくことにつながられる講義です。

教育経営の課題と実践

M1 教育実践開発コース 須藤 大貴



教育経営の課題と実践の講義の中で個人的に印象的だったことは、議会視察をした時です。そもそも、つがる市の議会を視察すること自体

が初めての経験だったこともあり、どのような形で進められ、誰が何を議論しているのかを実際に見て知ることができたのは貴重な経験だったと感じました。また、他の授業の中においても、例えば、青森県の学力の現状と課題の中で示された地区単位のデータ



はかなり印象的でしたし、様々な文献を読むのは大変であったものの、学校教育制度その

ものの課題等を、他国と比較しながら考えていくことは自分の教育分野の視野を広げることにつながったと思います。この授業で得た知識を糧にしつつ、今後も知識を蓄えていきたいと思っています。

2020年度入学院生にかかわるパンフレットが完成

弘前大学教育学研究科は、2020年度、教職実践専攻（教職大学院）の単独専攻が決定しました。これまでのミドルリーダー養成コースに加え、今まであった教育実践開発コースに替えて、学校教育実践コース、教科領域実践コース、特別支援教育実践コースの三つを新設し、合計四つのコースでスタートします。

それに伴って新たなパンフレットを作成しました。皆様のお手元に届くように発送いたしましたので詳しくはそちらをご覧ください。なお、ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧くださいませようお願いします。

なお、入試日程につきましては第1期入試が令和元年11月23日（土）、第2期入試が令和2年1月11日（土）となっております。各コースに多数の受験者をお待ちしております。

〈編集・発行〉

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻
（教職大学院）News Letter 第8号 2019.10.8発行
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel 0172-36-2111(代表)
メールアドレス k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp
HP 弘前大学教育学部（教職大学院をクリック）
弘前大学教職大学院 入試フォローアップ部会